

繁殖障害によく使われているホルモン剤の話 その3



写真1

皆さん、シダーまたはイージーブリード（写真1）というものをご存知でしょうか。「採卵のための過剰排卵処置や受け牛の同期化に使用した」繁殖障害の牛に使用した「知っているけど使用していない」または「知らなかった」という方も簡単に説明させていただきます。

シダーまたはイージーブリードは商品名で、薬剤名は臍内留置型徐放性プロジェステロン製剤といえます。これを牛の臍内に最大2週間入れておく（2週間が薬効の限度で、もちろんその後は抜き取ります）と、プロジェステロンつまり黄体ホルモンが徐々に放出され、臍粘膜を通して体内に吸収されます。すると、体内に元々ある黄体ホルモン量の半分ほどの量が上乘せされ、約1.5倍になる計算になります。では、黄体ホルモンの量が多くなると何が良いのでしょうか。

繁殖障害で診せている牛が毎回「卵巣が小さい」、「何もなし」といわれ、発情等がないまま、また2週間が過ぎ、獣医師にみせることになる、こんな経験があると思います。何かの原因で黄体ができにくい状態ならば、シダーまたはイージーブリードを使うことで改善が期待できます。つまり、シダーまたはイージーブリードを挿入して、黄体ホルモンの量を少し多くしてあげることで擬似的な黄体期を作ってしまうのです。抜き取った後、数日後に発情がくる場合もあります。また、すぐに発情が来なくても、次の周期（抜き取ってから21日後くらい）で発情が来る場合があります。他のホルモン剤を併用すればより良い効果が期待されます。図1に定時人工授精プログラムの代表的な例を示しました。

黄体ホルモンは妊娠継続にとっても大切なホルモンなので、シダーまたはイージーブリードを使用することで、受精後の受胎率向上につながる可能性があります。人工授精後、排卵確認をしてから2週間くらい挿入し、抜き取ります。妊娠が継続するようであれば、発情は来ないでしょう。しかし、もし妊娠が継続できなくても、発情がわかりやすくなる可能性があり、次の人工授精のチャン

スがあります。

紹介したシダーまたはイージーブリードですが、残念ながら保険給付外の薬剤です。使用するにはすべて実費となってしまうようです。しかし、他のホルモン剤と併用することにより、より良い効果が期待できます。各農家に合った使用方法があり、それを見つければ、今より繁殖成績がよくなると思います。使用するときは獣医師と相談してよりの確な使用方法を模索、選択してください。繁殖成績が少しでも良くなるように筆者もいろいろと模索していきたいと思っています。

（阿寒釧路家畜診療所診療課 石川 行二）

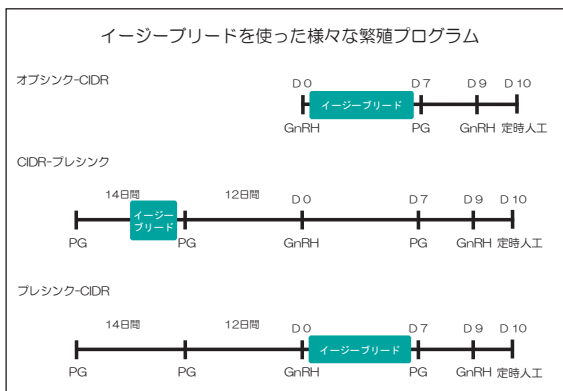


図1